

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4072300561		
法人名	有限会社 野いちご		
事業所名	グループホーム野いちご式番館	ユニット名	A棟
所在地	福岡県八女市新庄567番地 1		
自己評価作成日	2023年2月21日	評価結果市町村受理日	2023年4月21日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

地域の方々に恵まれ、地域に、ご家族に、そして利用者に支えられたグループホームだと思います。地域に貢献し、利用者が居心地よく、ご家族も安心していただけるようなグループホームをめざしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2023年3月6日	評価確定日	2023年4月4日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

“グループホーム野いちご式番館”の庭に土筆（つくし）が顔を出し、皆さんで摘んで美味しく春をいただいている。日々の食事は法人内の別の場所で調理して配達しており、ご利用者も一緒に下膳や食器洗い等をして下さる。月1回は「自炊の日」を作り、調理を楽しまれている。リビングの天井は高く、窓から田畑を眺める事ができ、福市納骨堂で桜の花見をしたり、季節に応じた行事を楽しまれ、盆団子作りやスイカ割り、月見などの季節行事を皆さんで楽しまれている。コロナ禍、家族との面会が難しい状況も続いているが、LINEを使ったビデオ通話や写真、メールなどで少しでも安心できるように配慮している。2022年5月から新体制になり、新ホーム長が主になり書類の整理整頓を行い、保管場所の共有などを努めてこられた。今後は更に社長が大切にされている「自分らしく自由なそして、1日1日を大切に『今』を大切にする暮らしを支援します」という理念を振り返り、“野いちごファーム”に苺・トマト・キュウリ・なす等を栽培し、収穫を楽しまれていく予定であり、法人全体でホームの実情と原因、対策を考え、改善に取り組みまれていく予定にしている。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼、ミーティングの後に唱和している。併せて、理念をもとにスローガンを作成し、同様に唱和し、実践に繋げられるよう心掛けている。	入職した職員にはホーム長が理念を説明している。理念は7つあり、1つ目の「自分らしく自由な」生活が送れるように、入居者個々の生活ペースを大切にすると共に、理念2つ目にある「ご入居者の方のご希望、身体・精神状態にあった生活を専門スタッフが支援します」に向けて、職員個々の言動を振り返り、今を大切にしたいケアになるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設当初より、町内会に入り、地域行事などに参加しており、町内のまつりへも案内を受け、入居者、スタッフともに参加しているが、新型コロナウイルス感染予防のため現在は中止。	道路愛護にホーム長が参加したり、八女市医師会主催の研修で、ホーム長が看取りについての講義を行わせて頂いた。小学校からの声かけで、学校行事のライブ配信を鑑賞することもできた。コロナ前は町内会の日帰り旅行に職員が参加したり、“八幡ふれあい広場”で野いちご新聞を掲示したり、「福市よど」のグランドゴルフに参加していた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加したり、ホーム主催の敬老会や避難誘導訓練など出席いただき、ご理解いただけるようにしていたが、現在は新型コロナ感染予防のため、中止。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行った行事や、今後の予定などを報告したり、身体拘束等適正化委員会の報告も併せて行い、参加者からご意見を頂き、サービスの向上に努めている。ご家族には、面会時等、電話等にてご意見、希望等を確認している。	コロナ禍は書面会議が行われており、参加者（家族や地域代表の方々等）には事前に電話し意見を伺っている。日々の暮らしぶりや行事、外出状況を報告し、返信欄も付けている。身体拘束等適正化委員会も一緒に行い、「スピーチロック等」の振り返りが行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	特に積極的にとは行ってはいないが、必要に応じ、相談や報告を行い、良い協力関係が気づけていると思います。	専務が主になり八女市との情報交換を続けている。八女市の実務指導もあり、ケアプランに関する指摘なども受けている。運営推進会議の会議録を提出し、日々の取り組みを情報提供している。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないというホームの方針をスタッフは理解していると思う。会議やケアの現場などで、それぞれ考えながら実践している。	全職員で「身体拘束はしない」ことを理解しているが、不適切ケアに繋がるような場面もあり、社長・ホーム長等で対策を検討してこられた。2022年度に人事異動があり、明らかに職員の言動やケア内容が良い方向に変化し始めている。家族にも「身体拘束を行わない事」や日々の見守り等に努める事を伝え、予測されるリスクも説明しており、ご本人の行動心理症状等を主治医に報告し、適切な治療が受けられる体制もできている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議の場や日頃のケアの中でスタッフには伝えている。入居者の身体チェックや言葉遣いなどお互いにチェックしあえるようにしている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	入居者で成年後見制度を活用している方がいるので、その方を通して理解しており、今後必要な方がおられる時は、検討していきたいと思っている。	入居契約時に制度の説明をしている。成年後見制度を利用している方もおられ、後見人との情報交換を続けている。ホーム長や社長が制度の必要性を検討し、必要に応じて福祉事務所を紹介している。県のグループホーム部会で権利擁護研修に職員が参加し、制度の勉強を続けている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に確実にっており、変更時には手紙などでお知らせしており、不明なことがあれば、その都度尋ねてくださいと伝えている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の近況報告にて様子などを報告し、面会時などに要望や質問などを聞くようにしており、それらを反映するようにしている。	理念の⑦に「いつでも、ご家族が、気軽に立ち寄っていただける共同生活住居を目指します」とあり、面会時や電話で要望などを伺っている。コロナ禍もLINEを使ったビデオ通話や写真、メールと共に、毎月の新聞に写真をたくさん掲載し、暮らしびりを報告している。	今後も家族の方々の真意を理解し、家族に情報提供する文面の表現の仕方に配慮すると共に、家族の方々との信頼関係を築いていく方法を法人全体で検討していく予定である。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のリーダー会議、棟会議にてスタッフの意見や代表者からの提案などについて、話す機会を設け、朝礼後のミーティングでは、少人数で、よりスタッフ同士で意見などを出しやすいような場を設け、運営に反映できるようにしている。	2022年5月から新体制になり、書類の整理整頓を行い、保管場所などを職員と共有するように努めてこられた。委員会活動も継続し、職員主体で行事計画書を提出し、実施記録も作られている。コロナ以前は全体会議も行われていたが、コロナ禍は「リーダー会議」「ユニット会議」で情報交換している。	今後も職員個々の有する能力や特技などを把握し、日々の生活で発揮してもらおうと共に、より良いケアを行えるように更なるチーム作りを行っていく予定である。 ②系列の3つのホームで異動もあり、運営者・幹部等が主になり、3つのホームで共有できる書類を整備し、役職毎の役割マニュアル等を整備していく予定である。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	できる限り努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	十分に配慮している。そして個々の希望休を優先し配慮している。	社長とホーム長で面接している。採用時は真に持っている人間味（人への優しさ・柔軟な発想力等）やサービス業に向いているか、人を好きかどうか等を大切に採用している。介護が初めての職員にもマニュアル等を渡し、日々の指導を続けている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	日頃のケアの中で、特に言葉遣いに注意し、相手の身になって、物事を考えていけるように指導している。	理念の②に「身体・精神状態にあった生活を専門スタッフが支援します」とあり、「入居者の身になって、物事を考える事」「言葉遣いには十分に注意を払う事」を共有している。	今後も『言動』『行動』の前には必ずひと呼吸おき、自分の言動を意識して考えていくように伝え続けていきたいと考えている。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内など積極的にスタッフへ伝える様にしており、その中で個々に受けたい研修があれば、個々に希望を確認し、実施している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム部会、地域密着型連携会議、八女筑後地区在宅医療・介護連携推進会議会などに入会しており、研修会などを介して、様々な交流を図るようにしている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の情報をもとに、サービスを提供しているが、新しい情報がある時は、記録に残し、今後のケアに繋げている。そして、入居者との会話に十分耳を傾け、安心できるような接し方を心がけている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族より、入居に至った経緯や困りごと、不安に思うことを伺い、本人、御家族の要望をケアプランに反映させるようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	以前利用されているサービスの継続が必要と思われる場合は、入居後も利用していただいている。入居後に必要と思われるようなサービスがあるときは、検討していく必要があると考える。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができる事を見極め、できる部分を活かし、できない部分をサポートしながら、共に喜びを分かち合えるように心がけている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の中で、気づいたことなどは、近況報告などで報告するようにしている。現在はコロナウイルス感染症予防のため、面会の制限を行いながらも、LINEを使ったビデオ通話や写真、メールなどで共に安心できるように配慮している。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでのなじみの関係が継続できるように、新型コロナウイルス感染拡大を勘案し、実施できるように努めていく。	理念の3つ目に「なじみのある場所で、四季折々の季節や五感を感じる生活を支援します」とあり、生活歴等を把握している。家族に年賀状を出しており、ご自分で書かれる方もおられる。コロナ以前は、職員や家族と自宅や美容室、買物に行かれたり、お墓参りに行かれていた。“よど祭り”や“八幡土曜余市”で馴染みの方と再会されたり、ホームに友達が来て下さっていた。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者が孤立しないように、スタッフが間に入り、つなぎ役となれるようには、心がけている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、相談や支援ができる事は、行うようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いをできるだけ聞くようにし、一人ひとりに合わせた対応をとるように心がけている。	理念の1つ目に「自分らしく自由なそして、1日1日を大切に『今』を大切にする暮らしを支援します」とあり、入居者の“思い”を大切にされている。コロナ禍も「自宅に帰りたい」等の思いに寄り添い、一緒に散歩する事で落ち着かれる方もおられる。意志疎通が困難な方も、言葉にならない思いを把握するように努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に本人や家族、ケアマネージャー等から話を聞くようにしている。新しい情報がある時は、共有しケアに活かせるようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の中で、何か変わったことなどがあれば、共有し、その人に合ったケアの検討を行い、その人らしい生活が継続できるようにしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議や朝のミーティング時に、面会時の家族の要望なども踏まえ、介護計画へ反映するようにしている。	理念の5つ目に「ゆっくりとそして、あきらめない生活が送れるよう支援をします」とあり、自立支援を大切に、ご本人のできる事を引き出している。食器洗い、洗濯物たたみ等の役割を担って頂き、主治医や看護師からのアドバイスを頂き、リハビリ（立位訓練等）や体操、散歩も盛り込まれている。	①今後もアセスメント内容に「できること」「介助が必要なこと」「介助理由」「留意点」「解決策」等を追記すると共に、ヒヤリハットや事故報告で分析した内容も盛り込み、介護計画（2表・3表）に連動させていく予定である。 ②家族とケアプランを話し合う機会を増やし、ご本人と家族への同意をいただく予定である。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝のミーティング時やその都度にスタッフ間で共有し、計画、実践と活かせるようにしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要であれば検討し、様々な支援方法に取り組むようにしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握を行い、必要に応じた連携ができる様に心がけている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にはこれまでのかかりつけ医を継続していただくようにはしているが、本人、家族の希望があり変更する場合は、スムーズな変更ができる様にしている。	月2回往診があり、必要時に歯科医の往診も受けられる。職員の観察力もあり、系列ホームの看護師も毎週健康チェックに来られ、早期対応に繋げている。必要に応じて訪問看護師が毎日来て下さり、家族と受診結果を共有している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づきなどがあるときは、必ず報告するようにしており、急な時は連絡し、指示を貰ったりしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ホーム内での情報を病院へ報告しており、退院時は、事前に情報をいただき準備している。その際、御家族へも連絡を密にとるようにしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、必要時に説明を行い、事業所でできる事を伝えたくて、理解していただき、チームで取り組んでいくようにしている。	入居時に『看取り同意書』を説明し、意向確認している。「最期はここで」と希望される方も多く、24時間体制で医師の往診（点滴や酸素療法等）が受けられ、看護師にも相談でき、急変時等の対応をマニュアル化している。終末期はご本人と家族の思いを受け止め、誠心誠意のケアを続けており、コロナ禍は家族の方と窓ごしに面会して頂いている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時に備えて、マニュアル化しており、特にAEDの取り扱いは全職員周知している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている。地域の方々にも参加していただけるよう声掛けを行っているが、現在はコロナ感染状況を勘案し参加中止している。	コロナ前は地域の方も訓練に参加されていた。2022年6月は消防署と夜間想定で訓練し、夜勤専従の職員も参加している。12月は昼間想定で行われ、通報装置に近所の方を登録し、避難訓練の際は連絡している。災害に備え水や保存食、発電機（本部保管）等を準備し、系列ホームの避難先として簡易ベッドを4台準備している。BCP（事業継続計画）も完成し、今後は職員への周知や訓練を行う予定である。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いには十分な注意を払ってほしいということを伝え、毎月『身体拘束等適正化委員会』を開催し、その中で、考える機会を設けている。	入居者の方は「さん」付けで呼ばれている。入居者の身になって物事を考え、職員は更なる「言葉遣い」の意識を続けており、身体拘束適正化委員会で振り返りを行っている。『言動』『行動』の前には必ず“一呼吸”置いて考えていく事を心掛けている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人より訴えがあった時はもちろん、訴えがない時、できない方に対してその思いを察することができるよう、日頃より観察していき、個々に合った生活を選択できるように心がけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の体調や要望に応じ、本人のペースに合ったケアを心がけている。本人の訴えがあれば、スタッフ間で検討し、実践していくようにしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみを心がけ、できる範囲はしていただくようにし、手直しなどが必要な時は行っていっている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在は法人内で、別の場所で調理して配達しているため、以前より準備という段階では一緒に行く事は減ってきているが、その都度行っている。後片付けは今まで通り、スタッフと一緒にしている。献立などの要望は常に聞くようにし反映できるようにしている。	法人内の厨房で全事業所の食事を作り、献立は社長が考えている。ご利用者の要望を活かした旬の美味しい料理である。朝食はホームで調理している。入居者の方も下膳や食器洗い等をして下さり、第3金曜日の「自炊の日」は果物やジャガイモの皮むき等をして下さる。干し柿、らっきょう、梅干し、盆団子作り等も一緒に楽しまれ、春にはホームの庭に土筆（つくし）が顔を出し、皆さんで摘んで美味しく春を頂いている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量がわかるように、毎食記録し、個人の状況に応じ、形態や食器の検討などを行い、実践している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っており、ほとんどの入居者が月1～4回の訪問歯科による口腔ケアを行っていただいている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレでの排せつを念頭に、支援を行っている。	尿便意があり、排泄が自立している方もおられる。排泄ケアで疑問がある時やパッドの必要性を含めて職員間で話し合い、入居者個々の排泄感覚に応じて事前誘導を増やし、失禁が減った方もおられる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の状況をスタッフが把握し、できるだけ下剤を使わない、自然な排便ができるよう、食品などを使用するようにしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	月曜日から土曜日の午後から夕方にかけての時間帯で、入居者の状態に応じ、ゆっくり入浴できるよう十分に配慮し実施している。	湯舟に浸かり職員との会話（昔話）を楽しまれ、菖蒲湯や柚子湯もされている。重度化されている方もおられ、リクランニングシャワーチェアを購入し、安楽に入浴できるようにしている。膝痛等があり入浴を拒まれる方もおられ、シャワー浴をしながら、転ばないように安全に留意しながら介助している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態に応じ、日中でも疲れているような時は、ベッドで休息していただいたりしている。そして、夜間の安眠ができるよう心がけている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬状況を把握し、変更などがあつた時は、副作用などを把握し注意深く観察することをスタッフ間で共有するようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のできる事、やりたい事、好きなことを日頃より引き出せるよう、そしてそれができるように、できる限り支援している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別での外出支援は少ないが、御家族がお連れされることは時々ある。ホームでも少人数での外出支援を行うようにはしている。	ホーム周辺を散歩しており、福市納骨堂の桜の花見、藤見学、つつじ見学等を楽しんでいる。初詣は熊野神社にお連れし、家族の事や世界平和等を祈られている。コロナ以前は買物などに出かけていた。今後も“野いちごファーム”に苺・トマト・キュウリ・なす等を栽培し、収穫を楽しまれていく予定である。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が金銭管理をしている状況にはないが、本人の希望で買い物をする時は、立替金から立替、買い物をするところがある。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望がある方は、外部との連絡はできている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者にとって、不快や刺激のある音は出さないようにしている。そして、できる限り自然な雰囲気意識するようにしている。	リビングの天井は高く、窓から田畑を眺める事ができる。リビングと台所が隣接し、入居者も一緒に洗い物等をされている。リビングのソファでテレビを見たり、他の入居者のセーターの毛玉取りをされる方もおられ、入居者も一緒に掃除機や洗濯物たたみ等をして下さる。コロナ前は行事の時は両ユニットの仕切りを開け、広く使われていた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人の生活スタイルに合わせ、一人になりたいような時は、居室にて過ごされたり、無理に他の入居者と一緒にはしない。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族と話し合い、入居者の状況に応じて徐々に増やしていくこともある。	居室は和室と洋室があり、全居室に電動ベッドを配置している。生活に必要なものを持ち込んで頂き、タンスやテレビと共に家族の写真等も飾られている。遺影や仏壇も置かれており、職員と一緒に“おはぎ”を作り、仏壇にお供えする時もある。家族が持参した飴玉を食べられたり、ベッド周囲に化粧品等を置くなど、自由にレイアウトされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる事はやっていただき、役割ややりがいをもって生活できるように工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				